

令和2年9月15日

北海道サッカー協会 各位

2020北海道レフェリーアカデミー第5回 事業報告

報告者：田口 平蔵(札幌)

<日時> 令和2年9月12日(土)、9月13日(日)

<場所> 北海高校グラウンド、北海きたえーる、洞爺湖町月浦運動公園ポロムイスタジアム

<参加者> インストラクター：古曾部 統太郎 氏、今川 一輔 氏、岡田 渉 氏

審判員：小松 祐也、田口 平蔵、牧田 隆史

9月12日

8:00 集合：北海高校

9:30 試合実践①

全国高校サッカー選手権大会札幌地区予選Aブロック決勝戦

主審：小松、副審1：田口、4<sup>th</sup>：牧田



13:00 移動：北海きたえーる

13:00 試合振り返り 担当INS：今川INS、古曾部INS

自己分析→

判定基準は一貫しており、選手に受け入れられていた。14分のアドバンテージはチャンスに繋がりそうなシーンであり適用できてよかった。ペナルティーエリア付近からのFKで壁がエリアライン上になったのを気付く事ができ修正できた。怪我人の対応も早く寄る事を意識した為、迅速な対応ができた。静修のGKのゴールキックの再開が遅く、蹴るように促していたが、それでも遅い場合は遅延行為での警告や、繰り返しでの警告も引き出しの一つとして持っていたい。動きとポジショニングでは、試合にあったポジショニングを取る事ができず、邪魔になるもっと前に要因があり、常に意識して動き出す事が大事であった。バックステップでの抜け方などは今後の課題である。

INS分析→

判定基準は概ね一貫性があった。7分のハンドの場面は手がボールの方向にいったのか、または偶発的だったのか。判定が難しい場面であるが、レフェリーの判定を尊重したい。14分のアドバンテージの適用も適切と感じられた。1分40秒のFKの場面、守備側競技者の壁に対して、PA内外を明確にし、かつPA内の壁が起こりえる反則(例ハンドリング)をしっかりと競技者に伝えられたところに成長を感じられた。この試合をチーム小松でコントロールするんだという気持ちを感じられた。試合前、試合中、試合後とも冷静に対応していた。しかし、北海のチーム役員がテクニカルエリアから大幅に飛び出して指示をする場面が多々あったため、公平・公正・気づきという意味で今後はアンテナを意識してほしい。

14:00 フィジカル講義「スプリント」 担当：岡田INS

8月に実施されたアカデミーの試合映像から各審判員のスプリントフォームの確認とポラールのデータから最高時速とその時の主審の動きを映像と照らし合わせて確認を行った。

フォームチェックでは各審判員のスプリントフォームからいい点と課題について岡田INSよりアドバイスを頂いた。また、ポラールのデータから試合中のスプリント回数の比較を行った。審判員の中には比較的少ないスプリント回数が表されたが、予期予測と動き出しからスプリントせずともいいポジションで争点を監視することが可能であると映像とデータから分かった。しかしながら、ある程度のスプリントをしなければボールのスピードに付いていく必要があるため、スプリントの重要性を改めて実感することが出来た。

15:00 諸連絡・解散

9月13日

8:45 集合：洞爺湖町月浦運動公園ポロムイスタジアム

## 10:00 試合実践②

北海道学生サッカーリーグ 1 部 北翔大学 vs 星槎道都大学

主審：牧田、副審 1：小松

### 自己分析→

試合を通して、判定により選手が納得しないということはほとんどなかったように思う。ただ、ひとつ、自分が 100%見れてるわけでもないのにファウルを取ったものがあり、その場ではほぼ抗議などはなかったが、あとから映像で見返したら、ノーファウルにすべき事象であったとともに、ファウルを取るとするならば、決定的な得点機会の阻止なのではないかという状況であった。今後の課題としては、まずは自分の見たことをもとに判定を下すことをより重視する必要がある。感覚的に判断してたら、絶対に今後痛い目に遭うと思う。それに加えて、自分の目でしっかり見極めるための位置取りとして、「前もった準備段階でのポジショニング」を意識していきたい。準備をうまくできれば、無駄にスプリントをして体力や集中力を削ることがなくなり、後の判定を落ち着いて、確実にできる可能性がより高くなると思う。

### INS 分析→

感覚で判断することによって起こりうることを体感した結果、今後はこのようなことがないように意識できるであろう。的確な判断をするために、準備の動きが重要になる。大体できているところはあるが、やはりサボってしまったところで、因果応報のように困った事態が起こる。これを 90 分通じて続けられるよう意識をしたら良いのではないかな。

## 12:50 試合実践③

北海道学生サッカーリーグ 1 部 札幌大学 vs 北海道教育大学函館校

主審：田口

### 自己分析→

判定に関して、前半 25 分のペナルティーエリア付近での判定では SPA の判定が適切であったが、ファウルを犯した選手の番号を失念してしまった。C・E 項目と合わせて自分が落ち着いた状態で判断しなければなかった。後半 10 分(反スポ)と 28 分(ラフ)の警告は的確に判定することが出来た。試合通して先取りを心掛けたものの、FW のウラの抜け出しに遅れてしまったことが映像に多く残ったので先取りしてからの動き出しを常に注意する。

B 項目にもあったが、試合は終始球際が激しかったため、レフェリーサイドだけでなくアシスタントサイドにもよることでプレーの監視にもなるし、何が起きてても即座にマネジメントが出来たと振り返る。

### INS 分析→

後半 10 分函館 27 番、23 分函館 29 番の警告に関しては、受け入れられるものであった。しかし前半 25 分の事象については、ファウルの判断基準は問題ないが、ペナルティーキックをフリーキックに変える経緯は、昨今の競技規則の変遷を鑑みて、対応する必要があると感じた。

特に、前半の札幌大がボールポゼッション時に気のゆるみを感じた。また、札幌大の FW に入る縦パスに動き出してはいるものの、スピードには乗れておらず、争点から離れるケースがいくつか見受けられた。

## 15:30 諸連絡・解散

